シュクル通信
2026年5月号

【編集・発行 vol.139】
(株)ボイスクリエーションシュクル
一般社団法人日本声磨き普及協会
発行責任者　佐藤恵
令和8年5月25日

この春、新たにインストラクターが8名誕生しました！

嬉しいご報告です。年明けから年度初めにかけて、新たに8名の方が認定インストラクターの仲間入りとなりました！皆さんそれぞれのフィールドで活躍されながら、約7か月間にわたり声と真摯に向き合ってこられました。その積み重ねが実を結び、見事全員合格！声磨きの価値に共感し、これから各地で活動を広げていく新たな仲間たちのバックグラウンドを一部ご紹介いたします。

■福岡市在住 Ｉさん

銀行勤務、児童英語教室講師を経て、長年受けていた整体で改善していった経験を生かし施術する側になる。現在は、自身のサロンを経営。日々健康に繋がる事を模索する中「声磨き」に出会い、生徒からインストラクターになる。「整体」と「声磨き」でみなさんを元気にしていきたい。

■大阪府大阪市在住　Ｍさん

大学卒業後、航空会社勤務を経て医療秘書、専門学校講師として勤めた後渡米。在米20年の前半は観光ガイド、後半は飲食のビジネスを立ち上げる。在米中に日本語の書籍を録音して貸し出すNPOに読み手として所属。数多くの作品を録音。日本に居を移し声磨きインストラクターとなる。一歩踏み出したいと自分と向き合う方に、衣食住を通して、ご自身の発する声を通して踏み出すお手伝いをしている。

■北海道札幌市在住　Ｍさん

経営支援の現場や健康経営の推進を通じて長年「人と組織と健康」に携わってきた経験を持つ。声楽を通じて声と深く向き合ってきた一方、退職後に声の衰えを実感。その後、声磨きによって活力を取り戻した実体験から「声は年齢に関係なく、磨けば必ず応えてくれるもの」だと感じている。認定コーチとしての視点も活かし、一人ひとりの声や思いに寄り添い、無理なく、楽しく続けられる声磨きを大切にしている。

■岡山県岡山市在住　Ｔさん

健康運動指導士の資格を活かして、病院内のメディカルフィットネスで長年、運動指導に携わり、一人一人の身体の不調や悩みに向き合いながら、多くの方の健康づくりをサポート。レッスンをしている時に、呼吸が苦しくなることがあり、「声は頑張って出すもの」だと思っていました。正しい呼吸と発声を学んだことで、無理をしなくても楽に声が出せるようになり、呼吸や声を整えることが心や体にも良い影響を与えることを実感しました。誰もが気軽に声を出して元気になれる場づくりを目指しています。

■東京都世田谷区在住　Ｓさん

私は人前で話すことが苦手でしたが、このままではいけないと還暦を機に克服しようと決心しました。声磨きは、話す力だけでなく、身体や心にも良い影響があると実感しています。たくさんの良い効果をもたらす声磨きの魅力を、皆さまにお伝えできればと考えています。

■千葉県市川市在住　Ｋさん

家族がパーキンソン病を患ったことをきっかけに声の大切さを実感し、声磨きを学びました。声は大切な自己表現の道具です。いつまでも自分の声で話し、コミュニケーションがとれるように、声を磨くお手伝いをしたいと思っています。

■埼玉県さいたま市在住　Ｋさん

日本ブラインドサッカー協会に所属し、ブラインドサッカーの普及に取り組む。学校や企業で、競技特性を活かした授業や研修の講師を担当。競技では声による情報伝達が重要なため、「伝わる声」の必要性を実感し、2021年から声磨きを実践。自身は視覚障がいがあり相手の表情を見ることができないため、声を「第一印象」として捉え、声から相手の心理や状態を読み取ってた。これまで培ってきた独自の武器が「感察力」。観るではなく“感じる”力であり、この力を駆使して声を丁寧に捉えながら、声磨きの時間を進めていきます。

ご自身のバックグラウンドやキャリアパスも十人十色の非常に個性豊かな8名が新たに仲間入りです。皆さんの1日も早い講師デビューを心より楽しみにいたしております！

「声で人生が変わった」―3名の新シニアインストラクターが語った“ビフォーアフター”スピーチ

先日開催された「声磨き®シニアインストラクター養成講座」最終回。この日は、受講生の皆さんによる“ビフォーアフタースピーチ”が行われました。「声磨き®シニアインストラクター」は、発声や呼吸法、表情筋トレーニングといった“声の基礎”だけでなく、話術話法・プレゼンテーション・人前での伝え方・印象形成・スピーチテクニック・コミュニケーションの実践力など、“高度なしゃべりのフレームワーク”を網羅的に指導できる上級資格です。
単に「良い声を出す」だけではなく、“その人らしい伝え方”や“人を惹きつける表現力”まで磨いていく―。今回のスピーチは、そんな学びを積み重ねてきた受講生の皆さんによる、まさに集大成の発表となりました。そしてこの日、3名の皆さんは晴れて「声磨き®シニアインストラクター資格」を取得。長い学びの集大成となる、感動あふれる時間となりました。

＜「声に自信が持てたことで、“自分軸”が整った」　アメリカ在住・かなだ愛子先生＞

声や話し方にコンプレックスを抱えていたとうかなだ先生ですが、声磨き®を通して大きく変わったこととして、次の3つを挙げられました。

① 声と話し方のコンプレックスが解消されたこと
② 自分の声に自信を持てるようになったこと
③ “ぶれない自分軸”が整ったこと

特に印象的だったのは、「声が変わるということは、声だけではなく、自分自身のあり方や見せ方の土台を整えることだった」という言葉。呼吸を整え、体のコンディションを整え、自分の癖と向き合う。その積み重ねが、「これでいいんだ」と思える自分につながっていったそうです。さらに、一級講座まで学んだからこそ、「基礎である2級講座の大切さに改めて気づいた」とも語られ、これからは基本を大切にしながら、声磨き®の魅力を多くの方へ届けていきたいと力強く話してくださいました。

＜「“喋りのオーラ”をまとえるようになった」　大阪在住・前田美恵子先生＞

前田先生は、声磨き®を続けてきたことで、「私は“喋りのオーラ”をまとえるようになりました」と表現されました。声そのものだけでなく、姿勢や立ち姿、表情まで整うことで、人に与える印象が大きく変わったと実感されているそうです。実際に、「話し始めた瞬間にオーラがありますね」「笑顔が素敵ですね」「先生みたいになりたいです」と言われる機会が増えたとのこと！さらに、人前での司会やプレゼンを頼まれることも増え、「声を磨くことで、自分自身の印象や立ち振る舞いまで変わった」と語られました。インストラクターとして現場経験を積み、さらに学び続けてきたからこそ生まれた“自信”と“存在感”。これからも「声の力で人を元気にしたい」と、温かな想いを届けてくださいました。

＜「今度は“自分のため”に声を使ってほしい」　愛知県在住・中西直美先生＞

長い間、家族のために頑張ってきた女性たちに向けて、「これからは、自分のために声を使ってほしい」そんな想いがあったそうです。「自分には何もない・・・」と感じていた時、“声磨きの先生になりませんか？”という一言に背中を押され、「何もないと思っていたけれど、私には“声”があった」と気づいたといいます。そこから挑戦を始めたものの、実際の学びは想像以上に奥深く、厳しく、何度も壁にぶつかったそうです。それでも、仲間や講師陣に支えられながら歩み続け、現在はカルチャースクールや市民大学で活躍。そしてある日、欠席予定だった受講生が講座終了間際に教室へ訪れ、「先生に会いに来たんです。元気をもらいたくて」と言ってくださったエピソードを語ってくださいました。

声磨きは「人生そのもの」を磨いていく学び今回の3名のスピーチに共通していたのは、「声が変わった」だけではなく“自分自身の生き方や在り方が変わった”ということ。声磨き®は、単なる発声トレーニングではありません。声を通じて、自分自身と向き合い、人とのつながりを育み、人生をより豊かにしていく学びでもあります。これからそれぞれの地域で、たくさんの方の“声”と“人生”を輝かせてくださることを、心より楽しみにしております！

〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町 1-15-1 エスプリ浦和 103
TEL: 048-829-9624　FAX: 048-829-9634
メール: info@vcsucre.com　info@koemigaki.com